平成24年2月3日付け　信濃毎日新聞

丸子修学館、東農大と連携

1学科と協定 生徒の講義参加など

丸子修学館高校（上田市中丸子）は2日、東京農業大（東京）の国際食料情報学部食料環境経済学科と教育協力協定を結んだ。高校生が大学の講義に参加したり、大学の教員が高校で授業をしたりしていく。同学科の立岩寿一教授が旧長門町（長和町）出身で同高校を卒業している縁もあり実現した。

握手する（左から）大日方校長、羽田町長、大久保学科長

立岩教授は1992年からゼミの活動場所に同町を選び、学生たちが植林や農業体験に取り組んでいる。2008年には長和町と同大が連携して町の活性化を考える「山村再生プロジェクト」が始まり、現在も月1回ほど学生たちが同町を訪れている。

協定は「異なる年齢の人たちとの交流は生徒を大きく成長させる」と、同高校が大学側に連携を申し入れた。同高校も生徒たちが地元の小学生と田植えをしたり、老人ホームを訪問したりしており、両者は「地域の中で生徒、学生を育てたい―という目標が一致した」とする。

この日、町役場長門庁舎で開いた調印式で、同高校の大日方悦夫校長は「大学生の皆さんに高校生を育ててほしい」、大久保武・食料環境経済学科長は「高校生が農学の魅力や、地元の良さに気付くきっかけになればいい」とあいさつした。羽田健一郎町長も同席した。同高校は昨年、松本大（松本市）とも同様の協定を結んでいる。

平成24年2月3日付け　東信ジャーナル

協働で山村再生フィールドワークなど
丸子修学館高と東京農大が協定
長和町や地域が実践の場提供

上田市の丸子修学館高校（大日方悦夫校長）と東京農業大学が2日、山村再生フィールドワークなどを協働して行う教育協力協定を長和町役場で結んだ。

東京農大と長和町が平成20年度から連携して行う山村再生プロジェクトに丸子修学館高の農業科目選択生徒が加わったり、東京農大が丸子修学館高に指導者を派遣したり活動する中で両校が相互に生徒、学生の成長に役立てる。

昨年、丸子修学館高は松本大と同趣旨の協定を結んでおり、2例目。高校と大学の教育協力に実践の場を行政や地域が提供する形では初めて。

すでに北海道の高校と同趣旨の協定を結ぶ東京農大に昨年、丸子修学館高が協定を働きかけた。同大の国際食料情報学部食料環境経済学科が平成20年度から22年度に文科省採択の「質の高い大学教育推進プログラム」で長和町と連携した山村再生プロジェクトを進め、本年度も独自に続けていることなどから協力を求め、決まった。

大日方校長（58）によると、同校は卒業生の3分の1ほどが地域に就職し、県外進学者や就職者も多くが地域に戻る傾向にある。高校と大学、地域が相互協力したキャリア教育などを通じ、生徒を地域活性化に貢献できる人材に育てることが同校にとって主眼だ。

教育協力協定締結に出席の（前列左から4人目から順に）
大日方校長、羽田長和町長、大久保学科長ら

この日は大日方校長と大久保武東京農大食料環境経済学科長が協定書に調印し、実習地の長和町、羽田健一郎町長ら計16人が立ち会った。

大日方校長、大久保学科長がそれぞれあいさつし「共同作業、意見交換など人的交流をし、両校にとって意義あるものにしたい」と期待を込めた。羽田町長は「山村再生に新たに修学館が加わることの成果を期待したい。可能な限り協力したい」とあいさつした。

平成24年2月3日付け　信州民報

学生・生徒が協力〝農業〟通じて成長を…

丸子修学館高と東京農大が「教育協力協定」

長和町の羽田町長が立ち会う

長和町長門庁舎

高校・大学が協力して　地域再生・活性化を担う人材の育成を―と、上田市中丸子の丸子修学館高校（大日方悦夫校長）は2日、東京農業大学国際食料情報学部食料環境経済学科（大久保武学科長）と、「教育協力協定」を長和町役場長門庁舎で結んだ。

羽田町長（写真中央）を挟んで、握手を交わす大日方校長（写真左）と大久保学科長

同高の教育協力協定締結は、松本大学に次いでのもの。

東京農大は現在、長和町と〝農業〟をテーマに交流しており、これが縁で調印式は長和町で行われ、締結には羽田健一郎町長が立会った。長和町は平成4年（旧長門町）から、同町出身の立岩寿一農大教授らが中心となり、農業を通じて学生と農業関係者らが交流活動を開始。20年度からは産学官連携の「山村再生プロジェクト」として、町民らが指導する学生たちの農業実践の場を提供しており、4年間で約35回の実習が同地で開かれている。

この日、丸子修学館高・大日方校長は「修学館高は創立以来、農業をはじめとする実学が教育の理念」とし、「学生、生徒が農業を通じて成長していくことを期待する」と話し、立ち会った羽田町長は「生徒も加わったプロジェクトの成果を期待し、協力は惜しまない」と、共に今後の取り組みへの大きな期待感を表した。また東京農大・大久保学科長はプログラムを発展させ、両校にとって意義のあるものに育てて行きたい」とあいさつした。

協定は、高校・大学間の相互交流と教育内容の充実を図ることを目的としたもので、内容は「相互に教育実習生や生徒の授業の受け入れ」「地域活性化・環境教育などに関する調査研究協力」「スポーツ、文化活動の交流」など。今後は山村再生プロジェクトに、丸子修学館高で農業を履修している生徒もできるだけ参加し、野外実習経験を積む予定だという。